

ドッグセラピーに取り組む野田さん。  
犬と触れ合える子ども食堂を始めた



野田久仁子さん(45) 小倉北

NPO法人ドッグセラピージャパン理事長

小倉北区片野で7月、犬と触れ合いながら心を癒やす「ドッグセラピー」を取り入れた子ども食堂を始めた。「子ども食堂」「貧困対策」というイメージを無くし、子供たちが犬を通じて命の大切さを学び、住民と世代を超えて交流できる場所を目指している。

毎月最終金曜の夕方、

が「かたのだ子ども食堂」に変わる。食事前に、子供たちは犬の体をなでたり、抱きかかえたりして触れ合える。参加費は小学生100円、高校生以上300円。集まる中小学生らの多くは共働き世帯や、犬が飼えないマンション暮らしの子供た

しみにしていく  
子ども食堂では、部屋  
を元気に走り回っていた  
男児も、数日前に生まれ  
た子犬が連れてこられ  
ると両手でそつと抱き  
上げて「え、こんなに小  
さいの」と笑顔を見せる。  
接し方を教わったわけ  
ではないのに、その姿は  
優しさにあふれる。子供  
たちは犬と約1時間遊  
ぶと、手を洗って会場に  
テーブルや椅子を並べ、  
ボランティアの大学生や

# 心癒やすす子ども食堂

住民たちとカレーライスなどの手料理をほおばる。

「知人が飼えなくなつた犬を動物愛護センターに連れて行こうとしたので、私が引き取った」。2006年、経営するペットショップで客から聞いた話にショックを受けた。センターには野良犬

A large, stylized red Japanese character '歩' (hodo, to walk) is positioned above another red character 'む' (mu). The characters are set against a light green background. To the right of the characters, there are two white footprints, one above the other, also on a green background.

だけでなく、飼い主の引  
っ越しや高齢を理由に預  
けられる犬がいることを  
知り、店のスタッフらと  
動物の命の大切さを伝え  
るビラを街頭で配るよう  
になつた。そんな折、高  
齢者施設で開いた犬と触  
れ合うイベントで、普段  
笑わない利用者が犬を抱  
いて笑顔を見せた姿か  
ら、犬に人を癒やす力が

あると感じた。13年、ドッグセラピー活動や犬を通じた心の教育に取り組むNPO法人ドッグセラピージャパンを設立した。

子ども食堂を始めるきっかけは、犬カフェで心を癒やす不登校の小学生との出会い。子供にも命の大切さを伝えたいという思いもあった。セラピードッグは、人に触られても暴れたりかみついたりしないよう訓練されています。子ども食堂ではボランティアらが犬との接し方を説明するが、子供たちは自主的に「犬が驚くから大きな声を出しちゃダメ」と互いに注意し合うなど、犬に対する気遣いも見せる。

「私たちが教えないくて  
も、子供たちは触れ合いで命の大切さを感じてくれる」。子ども食堂はスタートしたばかりだが、手応えはある。

【松田栄二郎】